

第393回生命科学セミナー

第1回「要素—システム」研究セミナー

合同セミナーのお知らせ

下記の通り生命科学セミナーが開催されますので、教員・院生・学生を問わず、多数ご参加下さい。

記

日時：平成29年5月30日(火) 16:30~18:00

場所：広島大学 総合科学部 K314

演題：細胞骨格から見たゲノム安定性

演者：登田 隆 氏

(広島大学・大学院先端物質科学研究科・特任教授)

〈 講演要旨 〉

我々生物は、受精卵という単一細胞から出発し、それが分裂・増殖を繰り返して、発生・分化過程を経て形作られる。すべての細胞は染色体/DNAに刻まれた同一のゲノム情報を保有している。一方、チューブリンポリマーから構成される微小管は、細胞増殖過程では双極性紡錘体構造をとって、染色体を二つの娘細胞に均等分配しゲノム安定性を保持するという重要な役目を担っている。発生・分化過程では微小管は神経細胞においてニューロン、感覚細胞等では繊毛構造を形成し、細胞運動・情報伝達に必須機能をもつ。

微小管が正しく働かないと、癌、神経系不全、繊毛病など重篤な疾患が引き起こされる。従って、微小管関連新規薬剤開発は多くのヒト疾患治療にとって焦眉の課題である。実際、パクリタキセルなど微小管をターゲットする薬剤は癌治療に広く用いられている。

本年はチューブリンが発見されて50年目の節目にあたる。本セミナーでは、微小管機能の中で特に染色体分配過程に焦点を当てて、演者が行ってきた研究を、モデル生物酵母の有用性と最新の成果を含めて、紹介したい。

責任者 総合科学研究科・田中晋平 (内線 6551)

主催者 生物圏科学研究科・清水典明 (内線 6528)

(注)生命科学共同セミナーを受講する生物圏科学研究科の院生は、特に積極的に参加してください。

(注)このセミナーは5研究科共同セミナーの一環として開催されます。

(注)このセミナーは総合科学演習または研究演習の一部として認められています。